

登録コード	HM115200	開講年度	2026			
授業題目	皮膚腫瘍学特論				担当教員	奥山 隆平 他
英文授業名	Skin Tumor				副担当	木庭 幸子・高沢 裕子・枝光 智大
単位数	3	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	(授業の達成目標)
	2026HM医学分野初, 2025HM医学分野初, 2024HM医学分野初, 2023HM医学分野初					
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能				⇔	皮膚腫瘍の病態を理解し、臨床における一般的知識を習得する。
(2)詳細/Detailed information	代表的な皮膚がん（悪性黒色腫、基底細胞がん、有棘細胞がんなど）の疫学を学び、予後因子等を理解する。各疾患の典型的な臨床像、ダーモスコピー像、および病理組織所見を学習する。腫瘍マーカーが存在する疾患では、臨床の有用性について知識を整理する。各疾患ごとの、外科療法、薬物療法、およびその他の治療法について学び、最新情報にもアクセスする。					
(3)授業の概要/Overview of course	皮膚は紫外線をはじめとして外界から刺激が加わるので、様々な腫瘍が発生する。悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌等の個々の腫瘍は特徴的な性質を有しており、現在新規の治療法も実施されるようになってきている。ここでは、皮膚腫瘍の診断と治療における最近の進歩を紹介し、今後の展開について触れる。					
(4)授業計画/Course plan	1回～5回 基底細胞癌はほとんどの場合、転移を起こさないため軽視される面があるが、ある程度の年齢になると顔面を中心に非常に高い頻度で生じる皮膚癌である。その病態メカニズムと新規の治療法について紹介する。 6回～10回 悪性黒色腫は、転移を起しやすく、かつ治療抵抗性の代表的な難治性疾患である。近年、その遺伝子異常の解析や免疫を利用した新しい治療法の開発が急速に進められている。その進展の恩恵は、悪性黒色腫だけにとどまらず多くの腫瘍に応用されようともしている。ここでは、悪性黒色腫に関してUp to dateな知見を含め解説を行う。 11回～15回 有棘細胞癌等の他の皮膚腫瘍に関してもその病態と治療法に関して概説する。さらに抗腫瘍薬に伴う皮膚障害の発症は、実際の治療において大きな妨げとなることが少なくない。抗腫瘍薬に伴う皮膚障害のメカニズムを解説する。					
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	講義終了後に提出するレポートにより評価する。(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」。4項目までできていれば「やや上にある(良)」。3項目までできていれば「水準にある(可)」。					
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep work/Textbook(s)/Reference work(s)	PCでのレポート作成、メールでの提出が可能な環境を準備すること。					
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	随時質問を受け付ける。					
(8)授業の形式/Course format	講義形式で行う。					